

戦争反対！ NO WAR!

ロシアによるウクライナ侵攻に断固として抗議し、即時停止を求めます

2022年2月24日に開始したロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、野蛮で非人道的行為であり、断じて許すことができません。

ロシア軍の爆撃により町は破壊され、銃と戦車によって人々の暮らしは押し潰されています。日を追うごとに攻撃は激しさを増し、避難する人々や学校、病院までもが標的となり、何の罪もない多くの子どもや市民が死傷しています。原子力発電所までも武力攻撃し占拠するなど狂気ともいえる蛮行が続いています。国内の避難民は640万人にのぼり（3月16日現在）、「子どもたち（がいる）」と標記された避難先の劇場まで爆撃されました。命からがらウクライナ周辺国や海外へ脱出した避難民は330万人を超え（3月17日現在）、その大半は女性と子どもです。親や家族とも離れ離れになった子どももいます。このようなウクライナの人々や子どもたちの惨状を目の当たりにして、日本も含め世界中の様々な団体や個人からロシアに対して抗議と即時停止を求める声明が発表され、戦争反対のデモも行われています。

戦争がもたらすものは破壊しかありません。人々の自由と人権を侵害し、いのちを奪い、文化や教育、子どもたちの未来までも踏みじってしまいます。ロシアによるウクライナ侵攻は国連総会で国連憲章違反であると決議されたように、あきらかに戦争犯罪です。人類が二度の世界大戦の反省と学びから国連で採択された子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）にも違反しています。ロシアは国連常任理事国であり、子どもの権利条約も締結しています。条約の定める「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」という子どもの4つの権利をことごとく侵害するロシアの軍事侵攻は、いかなる政治的事由があっても決して許されません。

九州保育団体合同研究集会は半世紀にわたって、保育・子育てに関係する保育者や保護者、あらゆる人たちと手を携え、子どもたちのいのちと平和を守り、子どもの権利を尊重した保育を求めて保育実践研究と運動を進めてきました。子どもたちの健やかな成長には安心安全な保育・子育ての土壌こそが必要であると確信しています。この戦争はウクライナだけに留まらず、世界経済にも波及し、核兵器使用も含めたさらなる軍事行動を招く恐れがあります。世界中の子どもや人々の平和と安全が脅かされているといえます。この事態を私たち九州保育団体合同研究集会は看過することができません。

私たちは、いまこそ平和と民主主義を求めるウクライナの人々と連帯するとともに、日本及び世界の団体・個人とも連帯し、ロシアによるウクライナ侵攻に反対し即時停止を強く求めます。

そしてわが国の平和憲法を遵守し、武力ではなく対話による解決に力を尽くすことと、ウクライナの人々への救済の手を差し伸べることを日本政府に求めます。

2022年3月24日

九州保育団体合同研究集会 常任委員会
「乳幼児期からの平和教育」分科会